

理科 内容のまとめりごとの評価規準作成のポイント

評価規準は、学習指導要領に示す目標の実現状況を判断するよりどこを表現したものです。評価規準を作成することで、問題解決のそれぞれの過程において、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にすることができます。作成に当たっては、取り上げる内容に照らし合わせて、次の六つの観点を基に具体的な児童の姿を想定しておくことが大切です。

理科の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 知識面 B 技能面	C 観察, 実験前の思考・判断・表現 D 観察, 実験後の思考・判断・表現	E 粘り強い取組を行おうとする側面及び自らの学習を調整しようとする側面 F 理科を学ぶことの意義や有用性の認識という側面

小学校第3学年 「太陽と地面の様子」の単元の評価規準例（一部）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 日陰は太陽の光を遮ることができる、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している。 A ※上記は内容(2)ア(ア)を基に作成。ア(イ)は省略。 - 太陽と地面の様子について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 B point 知識については、解説の各内容のA(ア)～(エ)を基に作成します。技能は、器具や機器の操作と、結果の記録に関する記述を記述します。	- 太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 C - 太陽と地面の様子について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し表現するなどして問題解決している。 D point 思考・判断・表現については、学年で主に育成を目指す問題解決の力に十分配慮して作成します。	- 太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 E - 太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 F point 主体的に学習に取り組む態度については、対象や他者とどう関わって問題解決しようとしているか、学びをどのように学習や生活に生かそうとしているかを記述します。

Dの評価規準を基に評価する具体例

<本時のねらい> (7/11時間)
観察の結果から日なたと日陰の地面の暖かさについて考察し、違いについてまとめている。

思考・判断・表現【記述分析】

日なたと日陰の地面の暖かさにはどのような違いがあるかについて、観察の結果を基に考察し、表現している。

観察の結果

	午前10時	正午
日なた	19℃	26℃
日かげ	14℃	16℃



(考) 時間がたつと太陽の光が当たって日なたの地面の温度は高くなるが、日かげの温度はあまり変わらないことがわかった。



時間的な見方や日なたと日陰の地面の温度を比較して考えている子どもの記述から、理科の見方・考え方を働かせて問題解決していると判断できるため、「おおむね満足できる状況」と評価することができます。